

米ハーバード大と京都大のグリークラブ(GC・男性合唱団)のOBによるジョイントコンサートが5月6日、高松市玉藻町のレクザムホール(県民ホール)で開かれる。四国初開催で、約90人が男性ならではの迫力の歌声を響かせる。事務局は「言葉の壁を超えた『日米こころのハーモニー』をぜひ楽しんでほしい」と来場を呼び掛けている。

ハーバード大・京大 グリークラブのOB 5月に高松でコンサート



迫力の合唱が楽しめるハーバード大・京大グリークラブOBによるジョイントコンサート(資料)

迫力の歌声お届け

米ハーバード大GCは1858年創設。1960年代に日本で行った演奏会が京大GCの創設メンバーに大きな影響を与えたという。両校OBは90年春にジョイントコンサートを大阪と東京で初開催。以来、定期的に日米を相互訪問してコンサートを行っており、互いのホームタウンのボストンや京都はもとより、ホノルルや長崎などでも開催し

てきた。

11回目の今回は、合唱グループなどの活動が盛んな高松市を会場に選んだ。県民ホール開館30周年記念事業も兼ね、両校OB会と同ホールの3者で結成した実行委が主催する。

コンサートは4部構成。

第1部は京大GCのOB55人がドビュッシーの「美しき夕べ」などを披露。第2部では、ハーバード大GCのOB35人がアメリカ古謡などを歌う。高松を拠点に活動する女声合唱団「フラウエンコール・かがわ」がゲスト出演する第3部に続いて、第4部は両GC OBの合同演奏で金毘羅船々や霊歌などを歌い上げる。

当日は午後2時開演。入場無料。定員800人。希望者には先着順で入場整理券を郵送する。希望者は住所、氏名、希望枚数(8枚まで)を記入しファクス(078(997)0284)か、京大GC OB会のホームページ(<http://gleec1nh.ddo.jp>)から申し込む。問い合わせは同実行委事務局の藤野さん(090(8799)3980)。

迫力ある歌声を披露した米ハーバード大、京大のグリークラブのOBによるコンサート＝高松市玉藻町、レクザムホール



ハーバード大×京大

グリークラブOB 高松で演奏会

国境超えた歌声披露

米ハーバード大と京都大のグリークラブ(男声合唱団)のOBによるジョイントコンサートが6日、高松市玉藻町のレクザムホール(県民ホール)大ホールで開かれた。両大のOBは約1500人の聴衆を前に、国境を超えた重厚なハーモニーを披露した。

ハーバード大のグリークラブは1858(安政5)

年創設。1960年代に日本で行った演奏会が、京大のグリークラブの創設メンバーに大きな影響を与えたという。両大のOBは90年春に初のジョイントコンサートを東京と大阪で開催。以来、定期的に日米を相互訪問して京都やホノルル、長崎などでコンサートを開

いてきた。

今回は合唱グループの活動が盛んな高松市を会場に選び、県民ホールの開館30周年も兼ねて、両大OB会と同ホールの3者で実行委を組織。当初、コンサートは小ホールで行われる予定だったが、観覧希望者が相次いだため、大ホールに会場を変更した。

B合わせて約80人が出演。京大はドビュッシーの「美しき夕べ」「海は伽藍よりも」、ハーバード大はアメリカ古謡などを披露した。最後の合同演奏では、県民にもおなじみの民謡「金毘羅船々」を合唱用にアレンジした曲のほか、靈歌「時には母のない子のように」などを歌い上げ、力強くも優しい歌声で観客を包み込んだ。

また、高松市を拠点に活動する女声合唱団「フラウエンコール・かがわ」も賛助出演し、ステージに花を添えた。

丸亀市新浜町の藤井学園(藤井睦子理事長)で7日、米ハーバード大と京都大の両グリーククラブのOB会が生徒と交流する事業が行われた。OB会のメンバーは特産の丸亀うちわ作りや盆踊りに挑戦し、日本文化を体験。生徒たちはこれまで学んできた英語を使って、笑顔でメンバーに盆踊りの踊り方を説明するなどし、触れ合いのひとときを楽しんだ。

OB会のメンバーは、6日に高松市で開催したジョイントコンサートのため来県。藤井学園への訪問は、指揮者を務めた京大OBの藤田正浩さん「丸亀市出身」と藤井理事長が同級生という縁で、グ

うちわ作りや盆踊り

藤井学園で生徒と交流

演奏会終え、両大OB

ローバルな人材の育成に力を入れる学園側が英語の実践授業の一環として招待した。

この日は同学園の中高生742人が日本と米国の国旗を振り、OB会のメンバーら39人を温かく迎えた。うちわ作りでは、メンバーが藤井高3年生37人の案内を受け、美人画や「祭」の文字などがデザインされた地紙を選び、丸亀うちわの伝統工芸士ら4人による指導で竹骨への「貼り」や形に仕上げる「たたき」などの工程に取り組んだ。



生徒と一緒に「金毘羅船々」を踊る米ハーバード大のグリーククラブOB会メンバー＝丸亀市新浜町、藤井学園

盆踊りの体験では会場の体育館にちようちんがつり下げられ、メンバーは生徒から「金毘羅船々」の踊り方を教わった後、法被を身にまとい一緒に踊り、笑顔を見せた。

訪日メンバー代表のベルナルド・クレイガーさん(80)は「踊りは難しいが、エンジョイしている。日本の伝統に触れられてうれしい。良い思い出になった」と喜んだ。同校3年の安田希代璃さん(17)は「会話は大変だったが笑顔で対応してくれた。英語の勉強を頑張ろうと思ったし、この機会を今後に生かしたい」と声を弾ませていた。